



五十六年度釧路新郷土芸術賞の受賞者が決まった。一人はトド原など北方風土の特性を追求しキャンバスに向かい続ける洋画の我妻重雄さん、一人は特別賞とし

## 受賞者のプロフィール

て、三十数年にわたる箏曲の演奏活動と後進の育成、邦楽振興に情熱を傾ける三谷キワさん。二十一日の贈呈式を前に二人のプロフィールを紹介する。

# トド原を執拗に追求

## 今後道東の風景を

トド原を描き続けて七年になる。五十二、五十三年と続けて一水会

展の佳作賞を受賞した作品はいずれもトド原、五十三年の釧路市買

い上げ作品もトド原、そして五十

四年に一水会の会員推挙になった作品もトド原だった。

知人から「トド原を描いても売れないのに」と冷やかされるが、このテーマの執拗な追求が、一歩

### 洋画

## 我妻重雄さん

だった久本さんを知った。当時の仲間、二科会員の園田郁雄さん、釧路短大教授の米坂ヒデノリさん、山田尚時さん、神原正人さんらがいる。四十三年に久本さんが世を去るまで、その自宅に通った。デッサンを見てもらい、久本さんが中央画壇で活躍した当時の交友談を通して、「絵描き」の生きざま

くった造形であり、同時に我妻さん自身の内面の形象化なのである。五十二年に太平洋炭硯を退職してから、絵ひと筋に打ち込んでいく。それだけに、釧路新郷土芸術賞の受賞が決まったことは大きな喜び。「これを励みに、道東の風景を、自由な気持ちで作品化していきたい」と語っている。

「苦しくなると、ほかのものを描く。でも、やはりトド原に戻る。これからも、この仕事を深めていくことになると思う」と我妻さん。

昭和五年、釧路市の生まれ。十五年に釧路湖陵高校卒業。三十三年に道東に入選、翌三十四年に釧路美術協会会員。久本春雄さんの紹介で、一水会常任理事の田中春弥氏に師事し、四十年から一水会展に出品して入選を続ける。五十一歳。釧路市松浦町五の七。

終生、弟子を持たないことを信条とした故・久本春雄さんの、数少ない門下生の一人である。旧制釧路中学時代に、美術の時間講師

から大事にしながら、自分の内にひそむものの造形化を目指していききたい」と、制作の姿勢を語る。トド原にあるのは、大地と空と朽ち果てた根っ子―それは自然がつ